

これからの国宝・重要文化財（美術工芸品）等の保存と活用に関する検討事項(例)

本ワーキンググループにおいては、文化財分科会における諮問、及び政府提言等を踏まえ、文化財を次世代への継承と国内外のあらゆる人々が文化財に触れえる機会を積極的に創出するための具体的な制度や施策等の在り方について、次のような事項について検討を行う。

1 これからの時代にふさわしい文化財（美術工芸品）の保存と活用の在り方について

- 国宝・重要文化財（美術工芸品）の適切な公開の在り方について
- 指定された文化財の保存と活用をより計画的に進めるための取組について

2 文化財（美術工芸品）の持つ潜在力を一層引き出すための文化財保護の新たな展開

- 文化財（美術工芸品）の保存・活用を支える美術館・博物館等の機能強化と基盤整備、地域振興、観光振興との連携の方策等について
- これからの文化財公開・活用に係るセンター機能の在り方について
- 文化財の持つ力を社会に活（い）かしながら保存を図るための方策として、先端の科学技術と連携した文化財（美術工芸品）の新たな公開・活用方策について
- 近代の重要文化財（美術工芸品）等の保存と活用の在り方について

3 文化財（美術工芸品）を適切に保存管理しながら活用を図る専門的人材等の育成・確保、及び環境整備の在り方について

- 学芸員等の専門性向上を含めた修理・保存・活用を促進するための人材育成・確保について
- 文化財（美術工芸品）を確実に継承するための環境整備